



石垣



門柱

門柱

門柱の石組みは「黒」が硬石で、他は「軟石(凝灰岩)」です。このように様々な石質と大きさや形を組み合わせることを「方形乱張(ほうけいらんばり)」といいます。普通は一種類の石質と大きさを揃えるものですが、ここにも建て主の勢いが滲み出ています。

＜株式会社山本工業所 吉田 隆 氏＞

石垣

石垣における平積みの場合、基本的に横のみを真っ直ぐにすればいいのですが、このように亀甲積(きっこうづみ)は6面全てを合わせる計算が必要で、高度な技術を要します。亀甲の継ぎ目に付けられている「白い縫い目」のようなもの(ノミ払い)や「凸部分(コブ出し)」はいずれもデザインです。また「亀甲」の石垣は、墓地にも使用されるケースがあるので、お目出度い意味合いより、火除けに発展した「卯建」と同様に「権威」や「美」を重んじたデザインで、建て主の勢いが感じられます。

＜株式会社山本工業所 吉田 隆 氏＞

アート庭園in旧寿原邸



旧寿原邸の庭園も三層で造られ、建物の各部屋からそれぞれの庭園景観を楽しむことができます。この庭園に道内作家の野外アートを設置し、アート庭園in旧寿原邸を目指しています。販売もしていますのでご相談ください。

＜協力：彫刻家 渡辺行夫＞

庭園
—Garden—

駐車場案内 旧堺小学校校庭(地図参照)



お車でお越しの方はNAVIに

小樽市東雲町9番13号 と入力いただくと「旧堺小学校校庭」に誘導してくれます。

❖ 制作: NPO法人小樽民家再生プロジェクト

❖ 連絡先: 代表理事 石井 伸和 (Ishii Nobukazu)

住所: 〒047-0028 小樽市相生町8番13号
株式会社石井印刷内

電話: 080-3156-8484

Mail: ipi-ishii@par.odn.ne.jp



ホームページ



フェイスブック



旧寿原邸
案内VR映像

❖ 協力(敬称略)

写真: 小樽市総合博物館、
寿原弘子、川嶋王志

図面: 小樽市公園緑地課

2023年4月29日 発行

小樽豪商の邸宅



旧
寿
原
邸
—kyu Suihara-tei—

〒047-0026 小樽市東雲町8番1号

人物

-Humanware-

高橋直治

-Takahashi Naoji-



この建物は、大正元(1912)年に高橋直治によって建てられました。高橋は越後(新潟)出身の豪商で、小豆の相場で財を成し「小豆将軍」と恐れられました。高橋倉庫は現在多く解体されましたが、有幌地区や色内地区(小樽芸術村ステンドグラス館)にはまだ活用されています。高橋直治没大正15(1926)年。



外吉と寿原邸

昭和9(1934)年にこの建物の新たな所有者となったのが、越中(富山)出身の寿原外吉です。外吉は建築資材としての金物や硝子を全道に卸す事業で大成しました。外吉没(昭和60年)後の翌年、遺族が土地建物を小樽市に無償譲渡されたことから「旧寿原邸」と称されています。当時の新聞には時価総額1億4千万円と記されています。

外吉の公職と表彰

＜『百年の歩み』株式会社スハラ商事、
『小樽経済百年の百人』北海タイムス＞

- 小樽市議会議員
昭和9(1934)年10月～昭和13(1938)年10月
- 札幌証券取引所理事長
昭和26(1951)年2月～昭和46(1971)年5月
- 株式会社北海道銀行監査役
昭和26(1951)年3月～昭和42(1967)年11月
- 同 取締役
昭和42(1967)年11月～昭和60(1985)年7月
- 小樽観光協会会長
昭和28(1953)年6月～昭和55(1980)年5月
- 北海道板硝子卸商業協同組合理事長
昭和28(1953)年6月～昭和55(1980)年5月
- 小樽商工会議所会頭
昭和30(1955)年9月～昭和40(1965)年11月
- 株式会社札幌振興公社社長
昭和39(1964)年7月～昭和45(1970)年9月

- 紺 綬 褒 章 昭和30(1955)年5月
- 藍 綬 褒 章 昭和36(1961)年11月
- 勲 4 等瑞宝章 昭和47(1972)年1月

建物

-Hardware-

本建物は木造二階建てですが、内部は三層になりそれぞれ階段で繋がっています。水天宮の丘のほぼ頂上に位置することから、地盤の高低差に準じて、三層の下も二層の下も地面なのです。坂の街らしい建て方ですが、これだけの敷地を持つ豪邸が少ないため、小樽でも数少ない貴重な建物です。

敷地面積: 2,038.63㎡(約617坪)
庭園面積: 1,652.70㎡(約500坪)



小樽市指定歴史的建造物第27号

築年: 大正元(1912)年 構造: 木造2階建
指定: 平成3(1991)年7月17日
管轄: 小樽市建設部公園緑地課

和室(一層)



茶室建築の手法・意匠を取り入れた住宅の様式で、虚飾を嫌い、内面から客をもてなすため、質素で洗練された数寄屋造りです。欄間には一富士二鷹三茄子(いちふじにたかさんなすび)が彫刻されています。

和風大広間(三層)



大広間(22畳)の天井は折上格天井(おりあげごうてんじょう)で、千葉県成田市の「東京別院」や金沢の「旅亭懐石のとや」にも使用され、支輪を湾曲して立上げて1段高くした天井です。格式の高い部分に用いられることが多く、仏堂や書院造の upper 段の間などにみられます。

洋間(二層)



今はなきベルリンのCARL ECKE(カール・エッケ)のピアノが健在で、アメリカの画家、彫刻家、写真家Man Ray(マン・レイ)の作品がさりげなく飾られています。



土蔵

2024年7月より「小樽まち文化博物館in旧寿原邸」を開設しました。人が歩めば道が出来るように、人が生きて馴染めばそこに文化が生まれます。＜協力: まち文化研究所＞